

想いがつながる『ネットワーク in 嚶鳴』

支部長 田中克子 (昭 32 年卒)

「嚶鳴同窓生になれて嬉しい。誇りに思う。」

壇上で堂々と挨拶をする新卒業生のこの言葉に、多くの参会者がどんなに感動し、癒されたことか。

昨年の総会は、昭和 11 年卒からこの平成 19 年卒まで、約 70 年という世代を越えた集いとなりました。これは他ではなかなか見られない情景です。その後、総会での出会いがきっかけで先輩・後輩の交流の輪が広がっているとお聞きしました。無条件に嚶鳴という絆で結ばれる、まさに同窓会ならではの良さではないでしょうか。

ご存知とは思いますが、東京支部は、先輩方のご尽力のお陰で登録会員数約 2700 名という大所帯になりました。一方で若い会員の減少という大きな悩みも抱えています。

そこで、この 2 年間、〈次世代につなぐために〉をモットーに、次のような基本的な考えで事業の見直しと

新事業を推進してまいりました。

一つは先輩、後輩の想いをそれぞれ大切にすること。もう一つはこれからの会員が参画しやすい企画・運営にすることです。総会の運営の仕方も若い会員が参画しやすいように随分変わりました。大変多忙な中、今年は昭和 56 年卒が引き継いでくれました。

また、こうした新しい試みを通じて、期せずして多方面にわたる方々と出会うことができました。その度に「嚶鳴という絆はつながっている。」「いざというときは皆さんが実に頼もしい力を発揮してくれる。」ことを知りました。嚶鳴のネットワークは想いがつながる優しく心強いものでした。

これからも、会員の皆さんの想いが、世代を越えてつながっていく「ネットワーク in 嚶鳴」を願い活動してまいります。ご支援をよろしくお願い致します。

嚶鳴同窓生の一員として

川崎ヘッジス陽子 (平 2 年卒)

2001 年 9 月 11 日米国同時多発テロと同じ日に 86 歳の大往生で亡くなった祖母と、地元山形市蔵王温泉でホテルの女将を務める母、東京で働く私の自慢の共通点は、親子 3 代に渡って嚶鳴同窓生であるということです。西高時代、母が同窓会の評議員をしていたことから、嚶鳴同窓会は私の身近にあったはずですが、高校を卒業し、山形を離れるととても遠いものになっていました。

ところが、昨年 2 月に突然東京支部より Welcome Party のお誘いをいただき、西高卒業後 18 年目にして、嚶鳴同窓会をまた身近に感じる事が出来るようになりました。Welcome Party では久しぶりに同級生と再会し、多くの諸先輩にもお会いすることが出来ました。

その後の東京支部総会ではさらに多くの方々とお会いし、東京近郊にこんなにも多くの嚶鳴同窓生がいるのかと大変驚きました。結婚されて東京にいらっしゃる方や東京で働く方、多くの諸先輩方が身近にいることを知り、とても心強く思いましたし、私も嚶鳴同窓生として皆さんに恥ずかしくないよう、がんばらなければと気持ちを新たにしています。

今は、母と同じように学年代表評議員という大役も仰せつかり、身が引き締まる思いです。主人の仕事の都合で、いつまで日本に居ることが出来るかはわかりませんが、少しでも皆さんと我が学年の交流を再開できるよう活動に尽力しようと思います。

未来のために

鈴木麻利 (平 19 年卒)

山形西高を卒業して、早、1 年が過ぎました。山形西高の誇り、友情、結束の固さは私の原点であると同時に、心の帰る場所でもあります。

私は今、初等教育教員養成課程国語科で勉強し、国語教育ゼミに所属しています。また、教育ボランティアとして小平市立第六小学校にお世話になっています。

このボランティアを通じて知り合った強烈な方々と、春休みに、ボランティアでカンボジアに行って来ました。絵本の読み聞かせや交流に行った小学校やスラムの子供達の、キラキラした笑顔が鮮明に記憶に残っています。

実際に活動して、現地でカンボジアのために働いているたくさんの日本人に出会い、将来に新しい道が開けました。

新しい友達、西高の先輩方、ボランティアの先生方との出会いを大切に、自分に出来る事を模索しつつ、夢に向かって、教養を増やし、見聞を広めていきたいです。

そして、教師に必要な資質を得られるように、日々の生活の中にも注意を払い、強い人間になれるよう、努力していこうと思います。

高校生活3年間を西高で過ごしたというだけの共通項で集う同窓会。対象となるのは50学年以上あるらしい。並々ならぬ歴史と伝統の重みに押しつぶされそうになりながら、総会の準備はスタートした。集まったメンバーは全部で7人。話をするのがじょうずな人、印刷関係に強い人、パソコンが得意な人…。それぞれが得意分野を生かしながら、準備を進める。残念ながら、ピアノが得意な人はついぞ探すことができずに、先輩のご協力をいただいた。その他、役員の方々にも、要所所所でご指導をいただいた。

嚶鳴女声合唱団の歌声は、本当にすばらしく、司会者が、感極まって涙する一幕もあった。同学年の友人

は、予想以上にたくさん出席してくれて、素直にうれしかったし、恩師の山川先生もお元気だった。卒業してから25年以上も経つけれど、みんな、それぞれの場所ではがんばっているんだと確認できたことで、元気をもらえた気がした。

45歳にもなって「若いわね」と、大先輩から声をかけていただけるこの同窓会。私達も逆の立場になって参加する日が来るのだろうか・・・？その時、友人達と集い、後輩たちの若々しい姿を見ることができたら、また元気になれるに違いない。その時まで、この同窓会を続けるために、昭和56年卒に次回の準備学年を引き継ぎ、私たちの役目を終えた。

平成19年度 活動報告

1月 22日	新旧役員会・監査
2月 5日	第1回評議員会・役員会・総会準備学年(55年卒)会
17日	準備学年打ち合わせ
3月 5日	東京支部プレゼンテーション(同窓会入会式にて)
6日	西高卒業式
21日	第3回ウェルカムパーティ
4月 7日	総会案内状準備
9日	第2回評議員会・役員会・準備学年会
23日	ホテルオークラ打ち合わせ
5月 14日	第3回評議員会・役員会・準備学年会
28日	役員会・準備学年会
6月 2日	ホテルオークラ打ち合わせ
10日	嚶鳴同窓会東京支部総会
18日	役員会・第1回役員選考委員会
25日	第4回評議員会・第2回役員選考委員会・反省会
7月 2日	第3回役員選考委員会
7月 24日	準備学年引継ぎ打ち合わせ
8月 24日	〃 引継ぎ会(55年卒・56年卒)
10月 12日	第4回役員選考委員会・新旧役員引継ぎ会
11月 11日	嚶鳴同窓会山形総会

平成20年度役員

東京支部長	田中 克子(昭32年卒)	顧問	神尾 ひさ(昭11年卒)
副支部長	笠井ひで子(昭44年卒)	〃	遠藤 倭久(昭30年卒)
〃	伊藤 優子(昭49年卒)		
庶務	佐々木昭子(昭39年卒)	平成20年度総会準備学年	
〃	菊池 朝子(昭41年卒)	代表	今田 洋子(昭56年卒)
会計	佐藤 一枝(昭52年卒)		大石 洋子
〃	平川 範子(昭53年卒)		鹿野 直美
会計監査	小倉 董子(昭26年卒)		竹田 浩子
〃	尾原 希子(昭47年卒)		

お知らせ

- ◇ 住所や姓が変わられた方は、eメールで手続きができます。
- ◇ ホームページに情報の掲載を希望される方、一筆箋やはがきの購入申し込みをされる方も、eメールをご利用ください。
同窓会のeメールアドレス dousoukai@oumei.jp
- ◇ 年会費の免除について
山形で11月に行われる嚶鳴同窓会において、喜寿のお祝いに招待された学年は、その翌年から東京支部の年会費が免除になります。
個人の喜寿とは異なりますが、ご了承ください。
総会へのご出席をお待ちしております。

平成19年度会計報告

支部長	田中克子
会計	田中恭子
〃	佐藤一枝
<一般会計>	
1.収入の部	
前年度より繰越	714,143円
年会費	1,030,062円
総会費	2,770,000円
本部より入会式交通費	49,160円
本部より助成金	50,000円
ご祝儀	70,000円
寄付	30,000円
雑収入(郵貯利子)	1,585円
計	4,714,950円
2.支出の部	
会議費	151,827円
印刷費	60,568円
事務用品費	41,397円
通信費	222,105円
渉外費	167,260円
役員・準備学年活動費	160,000円
事業費(ウェルカムパーティ)	29,500円
備品費	129,800円
総会当日費用(ホテル支払い等)	2,815,900円
計	3,778,357円
3.差引残高	936,593円
*1月～6月の運営費として、平成20年度へ繰り越す	
<特別会計(一筆箋)>	
1.収入の部	
前年度より繰越	124,156円
売り上げ	293,000円
計	417,156円
2.支出の部	
はがき印刷	52,500円
外袋・送料等	10,465円
計	62,965円
3.差引残高	354,191円
*次回印刷費として平成20年度へ繰り越す	
<監査報告>	
帳簿・領収書等を照合の結果、適正に行われていることを認めます。	
会計監査	鴨治邦江
	小倉董子